

標 題 : Olive Oil and Cancer Risk :
an Update of Epidemiological Findings through 2010
オリーブ油と癌 : 2010 年までの疫学研究の最新情報

著 者 : C. Pelucchi, et al. (イタリア マリオネグリ薬学研究所)

掲 載 誌 : Curr. Pharm. Design 17: 805-812 (2011)

要 旨 : オリーブ油の摂取は各種癌など複数疾患のリスク低下と関連している。
この論文で、2010 年までに発表されたオリーブ油と癌に関する疫学研究を我々は概説した。

我々は系統的な文献検索を Medline データベースで実施して、関連文献の評価後にオリーブ油摂取と癌リスクに関する元データ提供する 25 研究を収録した。

我々はまた乳癌研究のメタ解析を実施して、オリーブ油の高摂取 対 低摂取で統合相対リスクおよび 95%信頼区間(CI)を計算した。

南ヨーロッパで実施された複数研究で、乳癌、消化器癌、そして特に上気道消化管癌の良い指標としてオリーブ油摂取は報告された。

後者について、アルコールと煙草の使用を調整後に、極端なオリーブ油摂取で相対リスクは 0.3 - 0.4 であり、主にオリーブ油を摂取する被験者と主にバターを摂取する被験者でリスクに 5 倍を超える差があった。

オリーブ油の最高摂取群と最低摂取群との乳癌の相対リスクをまとめると 0.62 (95%CI 0.44-0.88)であった。

従って、他の脂質特に飽和脂肪酸が多いものよりもオリーブ油を好むことで、消化管上部と呼吸器の癌、乳癌のリスクが低下でき、結直腸癌と他部位癌のリスクを低下できるかもしれない。
